

院長 工藤 靖夫



西暦2004年（平成16年）は私たちにとって記憶に残る年となりました。全国高校野球選手権大会で駒大苫小牧高校が優勝し、真紅の大優勝旗が津軽海峡を越えました。アテネ・オリンピックでは過去最多のメダルを獲得し、日本中が歓喜に沸きました。一方、台風も過去最多の日本上陸となり、北海道も電柱・街路樹がなぎ倒され、農家にも甚大な被害をもたらされました。

このような激動の年に、私たちの病院も大海に船出しました。名前も札幌南一条病院となり、ほぼ半年を経過した今、船長はどのような羅針盤・海図を用いて、どういう舵とりをして、どのような航路をたどり、どこに向かっているのか。今の船の状態をどう理解し、どのように整備していくのか。その答えがこの小雑誌の中にあります。

船の話といえば、東郷平八郎が日本海海戦において、“皇国の興廃この一戦にあり各員奮励努力せよ”と檄を飛ばし、バルチック艦隊を破り日露戦争に勝利したのは有名です。私が今年院長に就任したときに“職員の満足なくして患者の満足なし”とお話しましたが、私たちの病院の興廃も職員全員の力にかかっています。力をあわせて医療界の荒波をおおしく突き進んでいきましょう。